
暴走族の俺が、異世界で光属性の勇者様！？

ビフィズス菌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暴走族の俺が、異世界で光属性の勇者様！？

【Nコード】

N9599Z

【作者名】

ビフィズス菌

【あらすじ】

主人公である赤神狂夜は強盗、窃盗、万引き、強姦、詐欺などなど色々な犯罪に手を染めてきた男だ。

更に俺は東京で一番強い暴走族のリーダーでもあった。

そんな極悪人である俺は一人の怪しい男から金を巻き上げようとしたが、男にまんまとハメられ、異世界『グローリア』へと召喚されてしまう。

そこで俺は善い行いをしてきた人のみにかなれない光属性の勇者様だと告げられる。

果たして、勇者になった極悪人はどうなってしまうのか？

第一話「え？俺が光属性？」（前書き）

ちよつとノリで書いてみました。

アクセス数によって書くかを決めたいと思います。

第一話「え？俺が光属性？」

「うらあー！雑魚どもは地面にでも這いつくばってるー！」

「ひいひい！絶対に覚えとけよな！」そう言って俺に喧嘩を売ってきた奴らは逃げていった。

「いやあー。やっぱり狂夜さんは強いですねー」俺の隣に入る舎弟は言う。

あ、言い忘れてたが俺は一応暴走族のリーダーあかがみきょうやの赤神狂夜だ。

たった今、俺に喧嘩を売ってきた集団300人程は消え失せた。

そう、俺はこの東京で一番最強の族を作り出したのだ。

そんな俺はちょっとした事件を起こしてしまい、大変な世界へと巻き込まれてしまう。

そんな奇妙な話である

事件当日・・・

「ふわあー。ちょっと眠いな。さてと、仕事に行くか」俺は目覚まし時計を見ながら言った。

今はちょうど夜の11時だ。ちなみに俺は夜行性なので昼間はずっと寝ている。

俺は仕事をするために街へと改造バイクで向かった。

あ、ちなみに仕事とはカツアゲのことだ。

「んー。誰がいいかな・・・おっと、あの怪しそうなおじさんにしよう」

俺は青色のマントを羽織った怪しいおじさんを追いかけ始めた。

おじさんはどうやら俺に気付いたらしく、路地へと猛ダッシュで逃げ始めた。

「待て！」俺もバイクを置いて、おじさんを追いかけた。

今思うと、このおじさんを追いかけてしまったことに後悔する。

途中で行き止まりになり、おじさんは逃げ場を失った。

「ちよいおじさん・・・金貸してくない？」

「フッフ」おじさんは笑っている。

「おい！なにが面白いんだよ！」

「フッフ」・・・このクソ爺、無性に腹が立つ。

「いい加減にしないと痛い目に合わ・・・」俺が脅しかけたとき、おじさんは俺の足元に指をさした。

足元には魔方陣のようなものが書かれていた。そして、魔方陣から光が放たれる。

「てめえ！！！！・・・」俺は光の中へと吸い込まれていった。

「ん？」俺は目を覚ますと、中世ヨーロッパのような雰囲気の場所にいた。

「おい！ここはどこだ！？」俺は動こうとしたが、体に力が入らない。

すると先程のおじさんと似たような格好をした奴らが現れた。

「これが本当に勇者様なのか？」赤いマントの奴が言う。

「おい！クソ野郎ども！ここはどこだ！お前らは誰だ！何の真似だ！」

「こちら、質問はいつぺんにだすものではないぞ。」緑色のマントの奴が言った。

「じゃあ順番に説明しましょうか。」

まず、あなたは私達の手により、異世界『グローリア』へと召喚させられました。

当然ですが、今この世界は大きな世界対戦が起ころうとしています。そこであなたにこの世界を救ってもらいたいのです。」黄色のマントの奴が言った。

「あ？意味わかんねーよ。とつと元の世界に戻せ！」

「おやおや、口だけは達者ですね。ならこれでどうですか？」青のマントの奴はマントの中から手を出して、魔方陣を描き始めた。

そして、次の瞬間に俺の周りを炎が包んだ。

「あづづづづづづづづづ！！！」俺は叫んだ。

「どうですか？話を聞く気になりましたか？聞かないなら炎は消しませんけど」

「わかったよ！聞けばいいんだろ！聞けば！」

・・・絶対に体が動くようになったら真っ先にアイツを殴る、と決意した。

「じゃあ詳しい説明は後にします。まずはあなたの魔力を測定しましょうか」

緑色の男はマントの中から謎の装置を取り出した。
その装置というのは、はつきり言って洗濯機だった。

「おい、馬鹿にしてんのか？」

「正気ですよ。じゃあ早速・・・」そう言って奴はおれの体を持ち上げ、洗濯機に入れようとする。

「ちよいちよいちよいちよい！！」俺は無理矢理、洗濯機の中に入られた。

「じゃあ行きますねー」奴はスイッチを押した。

キュイイイイイン！！洗濯機は高速回転を始めた。

「うぎゃあああああ！」俺の声には誰も耳を傾けず、奴らは検査結果を楽しみにしている。

・・・作戦変更だ。俺の体が動くようになったら全員を一発ずつ殴

る。

そして回転が止まり、俺は洗濯機から脱出できた。

「おお！これは、もの凄い魔力の高さだ！」

ん？まあ、なんだかわからないが褒められているようなので嬉しい。

「一体何が凄いんだ？」

「あなたは本物の勇者様です！炎・水・風・地・闇の属性は全く反応が無いのですが、

光だけは異常なほどの反応がでています！これほどの素晴らしいお方はいない！」

「きつと前の世界では、嘘を一回もつかず、暴力なんてもってのほかで、一日100回以上はいい事をしてきたのですね。」青マントが言った。

「へ？」

ちよい待て、俺はかなりの悪い奴だぞ。暴走族リーダーで何人も殺しかけている。

強盗、窃盗、万引き、強姦、詐欺などには手を染めてきた人間だぞ。そんな俺が光属性の筈がない。

「おい、この機械絶対壊れてるぞ！」

「そうですか？じゃあもう一回・・・」再び俺は洗濯機に入れられた。

「ぎゃあああああああああ!!」俺の悲鳴が部屋中に響いた。

第一話「え？俺が光属性？」（後書き）

これから「転生した異世界で金を荒稼ぎ」と平行して進めていくか、この小説はボツにしようか迷っているところです。

感想・指摘などもらえると判断材料になるので
できればしてもらいたいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9599z/>

暴走族の俺が、異世界で光属性の勇者様！？

2011年12月29日23時49分発行